須坂市地域クラブ第3回運営委員会　会議録

10月7日(水)18:00～19:00
須坂市役所本庁舎3階305会議室

1 開 会

2 あいさつ

・日頃の各現場での熱心な指導及び運営への協力に対し、感謝申し上げる。
・本日の協議事項5件のうち、(3)認定地域クラブ活動制度への対応と(4)来年度へ向けた検討が主なテーマとなるため、忌憚のない意見をいただきたい。
・会議終了後に指導者研修会を予定している。

3 協 議

(1) 地域クラブ加入状況について

事務局説明(資料1～2ページ)
・退会者の大半は大会等を終えた3年生の引退によるもので、引退を除くと、年度途中の退会はごく少数にとどまっている。

本件について質疑なし。

(2) 活動報告様式について

事務局説明(資料3ページ)
・活動報告様式を見直したもの。変更点は2点。
・出席者名簿の取扱い:前回運営委員会での意見を反映し、出席者名簿は提出不要とし、各専門部で保管することとする。指導者の報告の手間を減らすための変更である。
・「5 活動区分」の新設:練習・練習試合・大会のいずれかに〇を付け、大会の場合は大会名を記入する。指導者謝礼の支払いには活動区分が必要だが、活動名称だけでは判断しにくい場面があったため、報告書の段階で明記いただくこととした。

質疑応答
指導者: 出席者名簿はどの程度の期間保管すればよいか。
事務局: 少なくとも年度内は保管いただきたい。
指導者: この様式ではなく、表で1か月分をまとめて報告しているが、内容は網羅していると思う。その形式でもよいか。
事務局: 内容を網羅していれば差し支えない。都合のよい様式で報告いただきたい。提出に当たり不明な点があれば、事務局へ問い合わせいただきたい。

(3) 認定地域クラブ活動制度への対応について

事務局説明(資料4～5ページ、別添要綱案)
・指導者の登録について、本日の研修会も登録に必要な研修の一つとなる。次回の研修は1月頃を予定している。代表指導者には、各専門部の指導者の研修受講を促していただ

きたい。
・中体連の大会について、認定地域クラブとして参加する場合は、教員の引率や指導者資格が不要となり、参加しやすくなる。2月の一覧提出の際には、改めて情報を共有する。
・要綱案2件（団体の認定に関するもの、指導者の登録に関するもの）は、事前にメールで配布した別添のとおり。運営委員会で協議し、総会で承認をいただく予定。

質疑応答

指導者：指導者への研修の案内は、事務局から行うのか、代表指導者から行うのか。

事務局：事務局から行う。

指導者：教員の指導者に受講をお願いする場合の扱いはどうなるか。

事務局：研修は会場とオンラインで実施し、さらにオンラインの内容をアーカイブとして残し、後日も視聴できる環境としている。未受講の方がいれば、受講を促していただきたい。

指導者：認定要件の⑥（規約の整備、役員の選任・解任、適正な会計）は、何を指しているのか。

事務局：須坂市の 13 種目は運営主体が教育委員会であるため、教育委員会として確認するものと各クラブで確認するものが混在している。③の参加費と⑥の運営体制は、すでに規約で統一的に定めているため要件を満たしている。各クラブでは、①②④⑤⑦について整備いただきたい。

指導者：認定地域クラブとして参加する場合、教員の引率や指導者資格の取得が不要とある。現在、公認スポーツ指導者資格がないとベンチに入れない種目があるが、認定制度になれば資格がなくても入れるということか。

事務局：中体連の大会についてはそのとおり。ただし、協会主催の大会は扱いが異なる。種目によっては個人戦・団体戦や新人戦で中体連主催と協会主催が分かれているため、整理が必要である。中体連の大会に出場しやすくなる点が最も大きなメリットである。

指導者：学校名で参加しないと都合が悪い種目がある。認定地域クラブになっても、そのチームとして中体連の大会に出場するのは一部の競技と考えている。他の運動系専門部で、複数校がまとまり認定地域クラブのチーム名で中体連の大会に出場する形になりそうなところはあるか。

事務局：来年度の中体連の大会に学校名で出場するか、地域クラブとして出場するかは、学校とも連携して今後確認・判断していく必要がある。2月の一覧提出の締切までに決めていきたい。

指導者：認定クラブの要件に学校との連携とあるが、在籍校に部活動がない市外の中学校の生徒も加入している。市内は各顧問との連携ルートがあるが、市外の学校とはどのように連携すればよいか。

事務局：活動時間（週 11 時間等）が守られることが認定の要件だが、部活動がない学校であれば平日の活動は基本的にないとみなせる。必ず書類を提出するよう求めることまではしないが、情報としては揃えておきたい。市外の学校との連携については、教育委員会を通して話をする。

指導者：長野市のクラブに通う中学生がおり、兄弟の小学生も一緒に参加している例がある。須坂市でも小学生が参加できるのかと聞かれるが、どのように考えるか。

事務局：須坂市地域クラブは、現在のところ中学生に限定している。

（4）来年度へ向けた検討について

事務局説明（資料6ページ）

・資料に基づき説明。

質疑応答

指導者：陸上は7年前から、学校の先生の手を借りず、平日・休日を含め週5日、形の上では地域展開を完了した形で活動している。現場では「部活動はもうなくなる」という雰囲気があるが、地域クラブでどこまでできるかは専門部によって異なる。陸上は2年前から県大会への出場がターゲットナンバー制・標準記録制（1年間有効の記録が対象）となり、学校や個人によって出場する大会や挑戦できる記録会が異なるため、各学校の対応が必須で、取りまとめはできない。そのため休日の練習は地域クラブで担い、休日の大会エントリーや引率等は学校の部活動にお願いするという線引きで、うまくいっている。専門部によっては、学校から部活動が組織としてなくなると地域展開もできなくなる。教育委員会には各専門部の状況をよく把握し、部活動が必要な場面もあることを学校現場に伝えていただきたい。来年度も現在の方向で継続をお願いしたい。

指導者：平日の部活動の問題点が2点ある。1点目は、平日の部活動顧問は手当なしで指導しており、モチベーションの維持が難しいこと。2点目は、平日の部活動のみの生徒と地域クラブにも加入している生徒が混在し、生徒間の意欲に大きな差が生じていること。保護者も役員になりたくないため加入しないという状況も見えてきている。来年度は現行の形で進めるとしても、その先の在り方を検討していただきたい。

指導者：今後、何年後にどのような形で平日の地域展開を実施できるのか、見通しを伺いたい。現在は指導経験のある顧問が平日を見てくださっているが、在籍年数を考えると、今後は指導経験のない顧問になる可能性が高く、顧問の負担が大きくなるうえ、生徒が専門的な指導を受けられないまま練習試合や大会に臨むことになる。現在2年生が 20 名おり、目の前の子どもたちのことを考えると、全体の準備が必要なことは理解しつつも、できるだけ早く平日も移行したい。

事務局：サッカーは指導経験のある教員が少なく、異動等により来年度は指導できる教員がいなくなる可能性がある状況は理解している。ただ、何年度から平日も実施するという見通しは、現時点で教育委員会として示すことができない。もう少し時間をいただきたい。

指導者：認定地域クラブの指導者であれば中体連の大会でベンチに入れるので、少しやりやすくなる。問題は平日である。地域クラブとして平日をスタートできないのであれば、平日は自分が指導するとして、従来の社会体育の形（保険加入、保護者の当番、会場使用料の負担）で平日を始め、土日は地域クラブで活動するしかないのか。

事務局：部活動として、外部の方が指導に入るという形も考えられる。部活動であれば施設使用料も減免となる。

指導者：以前は、平日の活動は準備の整った種目から実施する予定だったと思うが、全種

目で揃える必要があるのか。

事務局：平日の会費がどの程度になるか、種目間の差について保護者の納得が得られるかが最も大きな課題であり、もう少し時間をいただき、検討を重ねたい。

指導者：平日の部活動を残してほしいという意見がある一方、平日も地域クラブへ移行したいという意見も出ているが、部活動だからこそ各種大会にスムーズに参加できている部分も多い。また、土日の地域クラブに加入しない生徒については、教育委員会が平日は部活動として残し、土日は部活動を行わないとしている以上、指導者として「土日に練習するのであればクラブに加入しなければならない」とはっきり伝えるべきである。

指導者：未加入の生徒は土日の練習には一切来ていない。中体連の大会には学校の部活動として出場しているが、それ以外の大会では学校名を使用しないよう学校から言われている。来年度以降、部活動として中体連に出るか地域クラブとして出るかは、学校の先生と相談して決めていきたい。

指導者：周辺市町村で地域展開を丸投げした自治体では、平日も部活動を一気に廃止したところもあるが、よほどのクラブ以外は教員が兼職兼業で指導してなんとか成り立っており、須坂市のような議論にはなっていない。我々は、指導者がいない中で、先生方の手をできるだけ煩わせずに平日を移行するにはどうすればよいかを考えている。理想は、平日に時間的な余裕があり指導実績のある実技指導者を、各専門部で一人でも二人でも確保すること。その見通しがない限り、一律に「この時期から平日を移行する」と決めるのは厳しい。陸上も1年、2年、3年という長いスパンで人材を探しながら取り組んでいる。専門部ごとに事情が全く異なるので、運営委員会で各専門部の実情を出し合い、相互に理解を深めることが大切である。

事務局：平日の移行については、事務局としても大変悩ましい課題と捉えている。引き続き意見をいただき、各専門部と調整しながら方針を決めていきたい。

（5）地域クラブ総会について

事務局説明（資料7ページ）

・議案第1号のうち会費の減免は、前回運営委員会で承認いただいた取扱いを内規に明文化したものであり、その報告となる。

・本日いただいた意見を踏まえ、総会に反映させたい。本件について質疑なし。原案のとおり総会に提出する。

4 その他

特になし。

5 閉 会

※ 会議終了後、引き続き指導者研修会を実施。